

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は戻り一服後に再び下落か

[1月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		1月2日～1月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	140.87	145.17(5)	140.82(2)	145.16	+4.12
ユーロ・ドル	1.1045	1.1046(2)	1.0893(3)	1.0928	-0.0111

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	33,377.42	-86.75	日本10年債利回り	0.608	-0.006
ダウ平均株価	37,440.34	-249.20	米10年債利回り	3.999	+0.120

=====

<来週の主要経済統計等>

- 8日 独11月製造業受注指数、独11月貿易収支
スイス12月消費者物価指数、スイス11月小売売上高
ユーロ圏11月小売売上高
- 9日 日本11月勤労者世帯家計調査
豪11月住宅建設許可件数、豪11月小売売上高
スイス12月雇用統計
独11月鉱工業生産指数
ユーロ圏11月雇用統計
カナダ11月貿易収支
米11月貿易収支
- 10日 豪11月消費者物価指数
- 11日 日銀支店長会議、1月の地域経済報告(さくらレポート)公表
豪11月貿易収支
日本11月景気動向指数速報値
米12月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 12日 日本11月経常収支
中国12月消費者物価指数、中国12月生産者物価指数
中国12月貿易収支
英11月鉱工業生産指数、英11月製造業生産指数、英11月貿易収支
米12月生産者物価指数

【前回のレビュー】米経済指標は利下げ期待から、下振れした場合の方が上振れした時よりも反応が大きくなって、ドル売りに振れやすい展開が見込まれる。こうした中、ドル円は上値の重い展開が続くとみられるとした。

【年明け以降にドル円の上昇が続く】

年明け以降は連日1円前後の値幅での上値を追う動きが続いている。ドル円は1月2日に140.80近辺でスタートすると、2日は一時142.21まで上昇した。3日には143円台後半まで一時上昇、4日には一段高となり、144円台後半まで上値を伸ばした。

1日に石川県能登半島で発生した地震の影響で、日銀のマイナス金利解除が後ずれするとの観測が広がっており、円売りの動きにつながっている。ドル円もドルインデックスマも昨年末まで下げが続いてきたことで、反動高に転じやすい地合いとなっていたことも背景にある。

また、昨年未まで低下傾向にあった米長期金利が年明け以降は上昇基調で推移していることもドル円の上昇の要因となっている。米10年債利回りは、昨年12月27日には3.794%前後まで低下した後、下げが続いてきたこともあり、上昇に転じている。1月4日には3.998%前後まで上昇を見せている。

3日にバーキン米・リッチモンド連銀総裁は、「ソフトランディングの可能性高まっているが、確実ではない」と述べた。さらに「住宅、サービスはインフレが2%超のままであるリスクがある」「追加利上げの可能性はまだ選択肢にある」との見解を示して、市場での早期利下げ観測をけん制すると、ドル買いの動きに傾いた。

また、同日発表の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（12月12-13日分）が発表された。議事要旨では「金利は予想よりも長くピークに留まる可能性がある。政策金利は当面の間、制限的な水準に留まる」と指摘しており、「より高く、より長く」の金利環境の可能性を強調した内容となった。こちらも早期利下げ観測をけん制するような内容となった。

1月8日の週には11日に12月の米消費者物価指数の発表がある。事前予想では、総合指数は前月比+0.2%（前回+0.1%）、前年比+3.3%（前回+3.1%）と前回は上回る見込み。コア指数の事前予想は前月比+0.2%（前回+0.35）、前年比+3.8%（前回+4.0%）とこちらは前回は下回る見込み。

市場予想を上回るとドル買いにつながりやすいとみられるが、米消費者物価指数は過去数か月おおむね順調に鈍化傾向を示している。このため、予想を下回るようだ。早期の利下げ期待の高まりからドル売りの流れに傾きやすい展開となりそうだ。こうした中、ドル円は戻りが一服すると、再び下げに転じやすい展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、141.00～147.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、9日に日本11月勤労者世帯家計調査、米11月貿易収支、11日に日本11月景気動向指数速報値、米12月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、12日に日本11月経常収支、米12月生産者物価指数などがある。

【ユーロドルは売り一服後に再び上昇か】

米長期金利上昇やドル買いの影響でユーロドルは12月28日の1.1130台から下げに転じている。昨年終盤までの上昇の反動もあり、年始は下げが続いて、3日には一時1.09ドルを割り込む場面も見られた。

3日にはフランス、ドイツ、ユーロ圏、英国などの12月非製造業PMI確報値がいずれも速報値から上方改定されたことを受けて、ユーロやポンドが買われている。ユーロドルは1.09台後半まで上昇を見せている。ユーロドルは昨年未からの下げが続いてきた。ただ、短期的に大きく調整してきたこともあり、売り一巡後は21日線などにサポートされて、再び上昇に転じるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0800～1.1100ドル。

ポンドドルは12月28日に1.2820台まで上昇した後はドル買いの影響などから修正安に転じた。ただ、2日に1.2600ドル手前で下げ渋り、再び上昇に転じている。ポンドドルはユーロドルに比べて、底堅い推移を見せている。

英中銀（BOE）は主要中銀の中でタカ派姿勢を維持している数少ない中銀でもあり、ポンドドルの底固さにつながっている。1.2600近辺では下げ渋りを見せやすく、ポンドドルは底堅い推移を続けるとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2600～1.2850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日に独11月製造業受注指数、独11月貿易収支、スイス12月消費者物価指数、ユーロ圏11月小売売上高、9日に豪11月住宅建設許可件数、豪11月小売売上高、独11月鉱工業生産指数、ユーロ圏11月雇用統計、10日に豪11月消費者物価指数、11日に豪11月貿易収支、12日に中国12月消費者物価指数、中国12月生産者物価指数、中国12月貿易収支、英11月鉱

工業生産指数、英 1 1 月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。